

暑い日が続きますが、南高生の皆さんは元気に過ごせていますか。夏休みに入るといつも以上に時間ができますね。せっかくの機会なので、ゆっくり本と向き合っはいかげでしょうか。

1 学期末・夏休みの開館日について

7月：19日、20日、21日、24日、26日、27日、28日、31日

8月：21日、23日、24日、25日

午前10時～午後2時

★これまでに借りた本は、終業式までに返却してください。

★7月19日以降に借りた本は、8月30日まで借りることができます！

夏休みの間も、皆さんの来館をお待ちしております！



【図書委員オススメの本】

今月は、「夏休みにオススメの本」を紹介します！

『氷菓』 米澤穂信（角川書店）



いつの間にか密室になった教室。毎週必ず貸し出される本。あるはずの文集をないと言い張る少年。そして「氷菓」という題名の文集に秘められた33年前の真実。「何事にも積極的に関わらない」がモットーの省エネ少年・折木奉太郎は成り行きで入部した古典部の仲間に依頼され、日常に潜む不思議な謎を次々と解き明かしていくことに。

私が初めてこの本を読んだときに思ったことは、登場するキャラクターの個性が強いということです。夕日を背に窓辺に立つ美少女の千反田える、「データベースは結論を出せないんだ」が口癖の福部里志、努力型秀才ツンデレ図書委員の伊原摩耶花。私は彼らの三者三様の性格も物語の魅力になっていると思います。

推理小説に慣れていない人でも読みやすい作品です。ぜひ読んでみてください。

（担当：阿部）

『夏の庭』 湯本香樹実（新潮文庫）

ある夏の日、小学校6年生の少年3人が親戚の死をきっかけに死に興味を持ち始め、近くに住む今にも死にそうな老人の死ぬ姿を見る計画を立てる。ひそかに観察を続けていたが、夏休みに入ったある日、老人に見つかってしまう。それでも、少年たちは老人のもとに通い続ける。顔見知りになってしまった少年たちと老人は次第に交流を深めていく。老人も活力を取り戻し元気になっていく。少年たちは老人と過ごす中で、誰にも教えられてこなかったことや経験してこなかったことをたくさん学んでいった。

私はこの本を読んで、人の死が何を意味するのか深く考えさせられました。この夏にぴったりの本だと思うので、ぜひ読んでみてください。



（担当：村上）





【読み聞かせ活動に行ってきました！】

6月16日（木）に、常盤小学校児童クラブで読み聞かせ活動を行いました。

子供たちに楽しんでもらえそうな絵本を図書委員が自分たちで選び、心を込めて読み聞かせを行いました。初めて参加する委員もあり、緊張していましたが、子供たちはとても喜んでくれました！ 2学期、3学期にもそれぞれ1回ずつ行う予定です。



【読書感想文のすゝめ】

夏休みの宿題で、読書感想文を書く人も多いと思います。ここでは、読書感想文にどのようなことを書いたらいいのかを紹介するので、悩んだ人は参考にしてください！

・一番心に残った場面について

どの場面（誰が、どうしているところ）が心に残ったのか。

なぜその場面が心に残ったのか。

・自分も似たような経験があれば書こう！

いつ、どこで、どのような経験をしたのか。

そのとき、登場人物と同じような気持ちになった？

・本を読んで考え方が変わったこと、これからの生活に生かしたいこと

この本をよんで、どのような新しい発見があったのか。どのように考えが変わったか。

これからの自分の生活に、どう生かせるだろうか。



【課題図書】

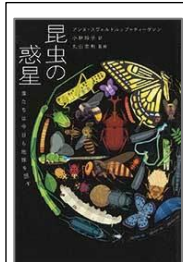
高等学校の部では、次の本が課題図書になっています。



安壇美緒 著
『ラブカは静かに弓を持つ』
（集英社）



白石優生 著
『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』
（河出書房新社）



アンヌ・スヴェルトルップ＝ティーゲソン 著
小林玲子 訳
『昆虫の惑星 虫たちは今日も地球を回す』
（辰巳出版）

*課題図書の本は、図書室にも置いてあります。数に限りがあるので、借りたい人は図書室まで相談しに来てください。

